

品川地区

品川区の「近代」と「伝統」が融合しているエリアです。新幹線の停車駅でもある品川駅周辺や、オフィスビルや商業施設が広がる臨海部は、その利便性の高さが魅力。一方で、旧東海道品川宿や寺社仏閣には歴史的な風情と趣があり、訪れる人々を魅了しています。



Shinagawa
area

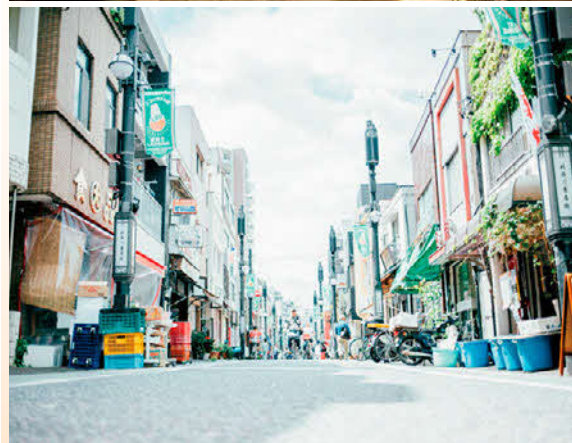
01 旧東海道「品川宿」

江戸時代、東海道五十三次の最初の宿場町として栄えたのが、日本橋から約10kmの場所に位置する「品川宿」です。徳川家康が「宿駅伝馬制」を定め東海道が日本を代表する街道になると、第一の駅（宿）として、人やもの、文化、情報がここ品川宿を中心に行き交うようになり、益々発展していきました。明治維新以降は日本が近代化に向けて突き進む中、工業の中心都市へと変貌し、近代日本の経済的発展を支え続けてきました。

中世以来1千年にもわたって発展し続ける一方で、まちとしての品川宿はあまり変わることがありませんでした。21世紀になった今でも、どこか懐かしくて、人の温もりがある、そんな

まちであり続けています。

多くの旅人や商人で賑わっていた品川宿。今でも人々の暮らしを支える活気に満ちた商店街や、周辺には多くの由緒ある社寺があり、当時の面影を残しています。観光スポットとしても人気です。



02 天王洲アート

「アートになる島 ハートのある街」をコンセプトに街づくりが進む天王洲アイランド。運河沿いの建物を彩る巨大な壁画や、倉庫をリノベーションしたギャラリー、国内唯一の建築模型専門ミュージアムなど、エリアの至る所でアートに出会えます。特に、ビル約10階分にも及ぶ三味線を弾く女性の壁画は圧巻のスケールです。また、「アイランドしながわ」の壁面には、オレンジと青の渦が描かれた鮮やかなアートも。街を歩くだけで世界レベルのアートに気軽に触れられる、アートファンならずとも楽しめるエリアです。



Photo by Shin Hamada

03 品川浦船溜り

江戸城に魚を納める漁村として栄えた場所。現在では釣り船や屋形船が係留されており、背景に古い家並みと、その向こうにある近代的なビル群との対比が独特の景観を織りなしています。なお、水路にかかる石造りの北品川橋は1925年に建造されたものです。



04 東品川海上公園

天王洲南運河と目黒川の合流地点に位置し、クジラ型滑り台や運河沿いボードウォーク、噴水広場などが整備されています。ミッフィーをモチーフにした花壇や遊具もあり、家族連れに人気のスポットです。春には「しながわ運河まつり」が開催されます。



05 品川神社

1187年に源頼朝が創建し、徳川家康が関ヶ原の合戦の際に戦勝祈願を行った神社です。毎年6月に行われる例大祭で見ることができる、宮神輿が急勾配の石段を昇り降りする様子は圧巻。「一粒萬倍の泉」は金運アップのパワースポットとして人気です。



06 T.Y.HARBOR

オリジナルのクラフトビールとボリューム感のあるアメリカンフードを楽しめる醸造所併設型のレストラン。天候の影響を受けないように対策がとられているテラス席からは運河が一望できます。青空の下でのランチ、夜景を眺めながらのディナー、両方ともおすすめ。

